



城南中だより

第 6 号

令和 8 年 8 月 26 日 発行

学校教育目標 希望と愛をはぐくむ美と活力の学校

～常に『思考』を大切にして、『創造』と『進化』を続ける魅力ある学校～

〒339-0034 さいたま市岩槻区笹久保577 TEL 048-798-0007 さわやか相談室直通 048-797-0514

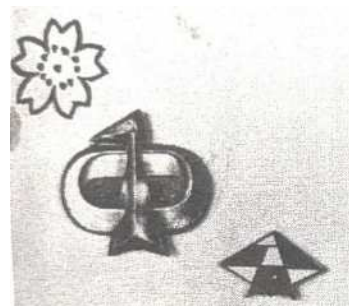
「学校沿革史」から ～ 記録を残すことの大切さ

校長 吉 原 誠 士

終戦から2年経った昭和22年、義務教育が9年に改革されて新制中学校の設置が決定しました。本校もその年に「新和村立新和中学校」としてスタート、校地移転後に「城南中学校」と改称し、さいたま市立中学校となり現在に至ります。「和土村立和土中学校」も同年に開校し、1949年には「岩槻町立岩槻中学校」に統合されました。旧和土村は複雑な変遷の後、一部が本校学区に含まれるようになっています。これらは校長室に永久保管される「学校沿革史」に載っていて、近隣の小・中学校の「学校沿革史」を参照すれば、新和、和土両村の教育史のまとめも可能でしょう。

学校関係者によるペン書きを辿ると、例えば昭和35年（1960年）10月31日付けで「制服設定委員会を組織し、数度に渡り調査 研究 討議し今冬より着用することに決定す。」という記録が見つかります。今年度の1年生の制服は、66年振りに刷新されたことがわかるのです。また、「生徒夏服制定 男女共上着だけ（6月1日より着用す）」（昭和40年）と書かれていても、当時の関係者や生徒の方々でなければ詳細がわからない記述もあります。

校章については制服決定の翌年に「校章制定す～本校第一回卒業生 芦立良輝氏製作」との記載があるだけで不明な点が残ります。徽章（襟などに付けるバッジ・上の写真左）の起源も伝わっていませんでした。この夏、「開校50周年記念誌」上に写真を見つけ、事情は不明ながら校章と徽章がセットで提案されたいことがわかりました。すでにメーカーは撤退したと聞き、新制服用に校旗から形を起こし、生地の色味に合わせて新たに発注しました（上の写真右）。しかし、何よりも大切にしたい“由来”について信頼すべき情報は見つかっていません。



時間の経過に伴って記憶が曖昧になることや記録が失われていくことは仕方のないことでしょう。しかしながら4月には理科室を片付けていた教員からは「新和中学校」と書かれた教材が出てきたとの報告がありました。本校の歴史を語る事物は、まだあちらこちらに眠っているのかもしれませんが。校区の様子はこの先20年で急速に変化する可能性があります。今の段階で本校に関係する人たちからお話を伺い、諸記録と資料をまとめる必要を感じます。開校100周年に向け、地域の記録も含めた「城南中学校アーカイブ」がまとまると面白いと思います。地域の方々、卒業生の皆様の力を結集できるよう、学校もこの地の中心とならないといけません。一緒に頑張りましょう。

→ 裏面にも「昇降口に輝く金色の校章」についての記事があります